

# 保育所実習の現状と課題

瀬 下 裕紀子

## はじめに

全国保母養成協議会が行った『基礎技能・保育実習に関する研究』<sup>1)</sup>によれば、同協議会が1993年度から取り組んだ「保母養成校卒業生の就業実態に関する調査」の自由記述において「実習時間をもっと長くし、体で体験できる場所、機会を多く持てたらよい。」「実習など子どもとの触れ合いの場をもっと多く持って欲しい。」や「保母職について何より役に立ったのは、実習体験でした。」といった現場での実習や体験学習を望む声が多く聞かれたと記述されている。

保育実習は保育所の理解と協力を得て、保育者の指導のもと理論を体験的に実践する総合的学習の場として重要である。

その実習をより円滑に遂行するためには、実習先との連携を図ることが不可欠である。そのためには数多い実習園の現状を把握する必要があると考えた。

そこで本研究では、本学が実施している実習運営について、実習園の意見や要望を把握し、保育所実習における多様な課題について検討することとした。

## 1. 本学における実習運営

本学の実習運営は次頁のような流れで行なわれている。

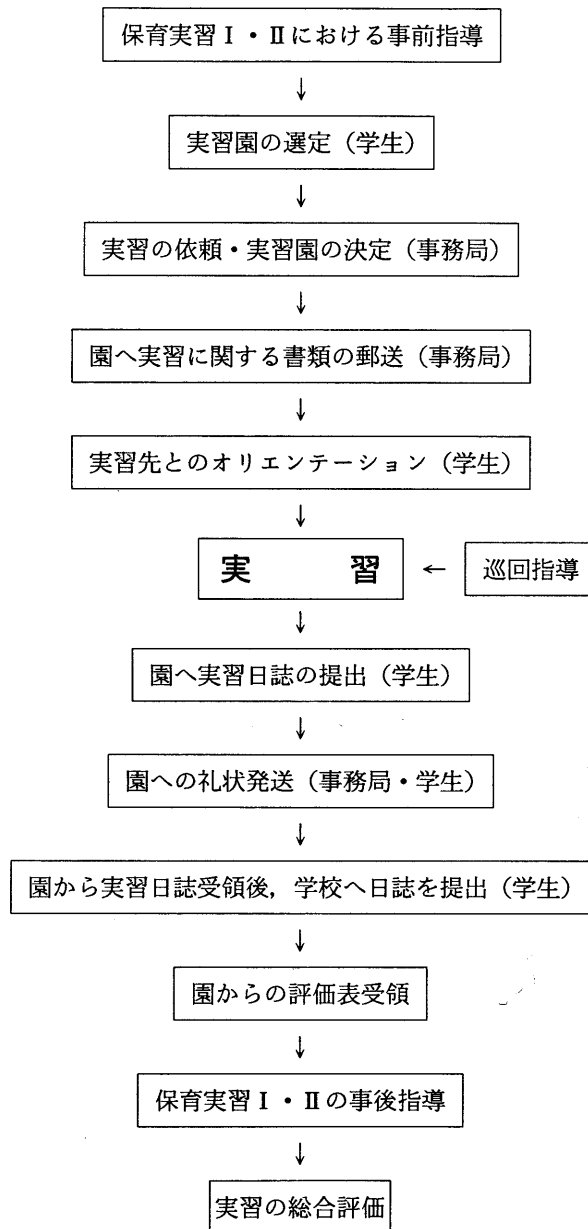
### (1) 実習の時期・期間について

保育士免許を取得するためには保育実習Ⅰが、幼稚園教諭免許を取得するためには教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱが必修科目である。保育実習Ⅱと保育実習Ⅲは選択必修科目である。表1にそれぞれの実習時期・期間を示す。

### (2) 実習園の選定について

実習園については一般に①協力実習園を確保している養成校、②学生自身に実習園を選択させる養成校、③その両方を組み合わせている養成校に分けられる。本学では後者の②の方法で実習園を選択している。

実習園を選択するにあたっては、通園方法を第一優先としている。学生の帰省先あるいは居住地から徒歩または公共の交通機関で通える範囲内の実習先を学生各自が選択する。この実習園選択条件において、今年度から施設実習（保育実習Ⅰ、保育所以外の施設実習



#### 実習運営の流れ

表1 本学における実習時期・期間

学年	科目	実習先	時期	期間	内 容
1 年	教育実習Ⅰ	幼稚園	6月～7月	1週間	参加・観察・参加実習
	保育実習Ⅰ	保育所	10月	2週間	見学・観察・参加実習
	保育実習Ⅰ	保育所以外の施設	6月～7月	2週間	参加実習
2 年	保育実習Ⅱ	保育所	8月～9月 (夏季休暇期間)	2週間	見学・観察・参加・責任実習
	保育実習Ⅲ	保育所以外の施設	8月～9月 (夏季休暇期間)	2週間	参加・責任実習
	教育実習Ⅲ	幼稚園	10月	3週間	見学・観察・参加・責任実習

のこと)については車やバイクでの利用を認めることとした。それは、施設実習では実習施設が比較的遠隔地で通園が困難な場合が多く、片道1時間半以上もかけて通う学生が生じたためである。このような学生に対しては、所定の書類による手続きによって車やバイクでの通園を許可する。

さらに保育実習においては次のような指導をしている。①1年次の実習では、公立の園への実習を勧める。その理由は、2年次に公立の保育士試験を受験する場合に備え、事前に公立保育所の実態を知るためである。②個々の園の特色、雰囲気を知るために2年次の実習では、1年次に実習に行った園と異なる園を勧める。このことにより2年次の保育実習Ⅱでは私立での実習が多い。これは1年次の時とは異なる実習園を選ぶという理由と同時に、学生は就職等も考慮して選択しているためである。

表2に平成12年度保育所実習先区分を、表3に平成11年度保育所実習先を示す。

表2 平成12年度保育所実習先の区分

学 年	公立 (人)	私立 (人)
1年次 (10月実施)	51	12
2年次 (8月から9月実施)	12	39

表3 平成11年度保育所実習先

園 名	経営	所在地	園 名	経営	所在地	園 名	経営	所在地
鳥屋野保育園	公	新潟	山田保育園	公	黒埼町	月潟保育園	公	月潟村
松崎保育園	私	新潟	すみれ保育園	公	五泉市	すみれ保育園	私	見附市
聖徳保育園	私	新潟	村松第一保育園	公	村松町	名木野保育園	公	見附市
笹口保育園	私	新潟	荻川保育園	公	新津市	桜保育園	公	見附市
真行保育園	私	新潟	新金沢保育所	公	新津市	東谷保育園	私	栃尾市
保育園るんびい	私	新潟	中沢保育所	公	新津市	芳香稚草園	私	栃尾市
新通保育園	私	新潟	さくら保育園	私	新津市	北部保育所	公	長岡市
翠松保育園	私	新潟	林照寺保育園	私	新津市	南部保育所	公	長岡市
芳原保育園	公	新潟	中新田保育園	私	新津市	昭和保育所	公	長岡市
坂井保育園	公	新潟	中央保育園	公	白根市	栖吉保育所	公	長岡市
入船保育園	公	新潟	田上保育所	公	田上町	中貫保育所	公	長岡市
佐和波保育園	公	新潟	坂田保育所	公	田上町	中沢保育所	公	長岡市
はじめ保育園	私	新潟	西宮保育園	公	加茂市	三和保育所	公	長岡市
みつばち保育園	私	新潟	西加茂保育園	公	加茂市	東部保育園	私	長岡市
中野スイミング保育園	私	新潟	加茂新田保育園	私	加茂市	長生保育園	私	長岡市
こばと保育園	私	新潟	宝が丘保育園	私	加茂市	摂田屋保育園	私	長岡市
松の実保育園	私	新潟	本量寺保育園	私	加茂市	柏保育園	私	長岡市
赤塚保育園	私	新潟	加茂保育園	公	加茂市	東部第二保育園	私	長岡市
高南保育園	公	朝日村	芝野保育園	公	加茂市	あすなろ保育園	私	長岡市
第一保育園	公	村上市	保内保育所	公	三条市	関原保育園	私	長岡市
瀬波保育園	公	村上市	田島保育所	公	三条市	西部保育所	私	長岡市
女川保育園	公	関川村	塚野目保育所	公	三条市	新保保育園	私	長岡市
聖籠保育園	公	聖籠町	嘉坪川保育所	公	三条市	広田保育園	公	吉川町
内浦保育園	公	粟島浦村	三条保育所	公	三条市	中央保育所	公	上越市
神納保育園	公	神林村	四日町保育所	公	三条市	和田保育園	公	新井市
三の丸保育園	公	新発田市	つくし保育園	私	三条市	はたる保育園	私	十日町
西園保育園	公	新発田市	本成寺保育園	私	三条市	水沢保育所	公	十日町
ひかり保育園	私	新発田市	南保育園	公	燕市	北越保育園	私	十日町
こまくさ保育園	私	豊栄市	中央保育園	公	中之口村	いずみ保育園	私	十日町
栄徳寺保育園	私	亀田町	中央保育所	公	吉田町	四十日保育所	公	六日町
早通保育園	私	亀田町	鎧郷保育園	私	西川町	湊保育園	公	両津市
上条保育園	公	上川村	めぐみ保育園	私	巻町	羽吉保育園	公	両津市
山手保育園	公	安田町	和納保育園	公	岩室村	相川保育所	公	相川町
村松第一保育園	公	村松町	笹岡保育所	公	下田村	小堅保育園	私	山形県鶴岡市
中央保育園	公	横越町	帯織保育所	公	栄町			

### (3) 実習の依頼について

学生が実習先を選定したら、保育実習実施希望園調査票（様式1）を事務局に提出する。学生が提出した希望園調査書をもとに、事務局が保育所に直接実習依頼をする。その依頼はほぼ承諾されている状況である。しかし教育実習においては、新潟県の幼稚園の絶対数が少ないことから実習園の確保が難しくなっており、近年自己開拓により実習を依頼するという場合もある。

### (4) 実習先とのオリエンテーションについて

実習園が決定すると、学生は実習1ヶ月ほど前からオリエンテーションのため実習園に行く。ほとんどの園が実習開始前にオリエンテーションを設定するが、なかには実習初日にオリエンテーションを行なう園もある。オリエンテーション終了後学生は、実習園事前訪問報告書を記入し、巡回担当教員と実習指導担当教員に渡す。

### (5) 巡回指導について

実習中は全教員が巡回指導に当たり、学生の実習の適応状況を把握すると同時に、実習園から実習に関しての要望や実習生に対するコメントを聞き指導を行なう。この巡回時に謝礼金を渡す。各教員は巡回後、学生の実習の様子や園からの要望等を巡回指導票に記入し実習担当者に提出する。

### (6) 謝礼について

教育実習Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（保育所以外の施設）、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、教育実習Ⅱのそれぞれの実習において実習園又は施設に謝金を渡している。園又は施設の希望によっては現金ではなく、図書券で謝礼を渡す場合もある。また県立の保育所以外の施設は、謝礼を受け取らない。

### (7) 実習日誌の提出について

実習後学生は実習日誌を整理し、実習園に提出する。園はそれらの日誌も参考にして学

様式1

保育実習Ⅰ実施希望園調査票	
担当 課 下	
学 籍 番 号	氏 名
第 1 希 望 公立・私立	保育園（所）
住 所 〒	
第 2 希 望 公立・私立	保育園（所）
住 所 〒	
本人現住所 〒	
実習中の住所 〒	
決 定 園	卒園幼稚園 卒園保育園

1 卒園幼稚園、卒園保育園を必ず記入してください。  
2 申し込み期日 月 日（期日厳守）事務室 目黒まで提出

生の評価をする。その後学生は実習園に日誌を取りに行き、学校に提出する。

(8) 実習後の御礼について

実習後事務局から実習園に礼状を発送する。学生も個々に礼状を書き実習園に発送する。

3. アンケートによる実態調査

(1) 調査目的

学生の実習先は、各自の出身地や居住地に合わせた通園範囲の中から選択していることから、実習園の数は非常に多く毎年60園ほどになる。そのため実習園の学生への指導は園によって多様である。そこで実習園の実態を知り、学校や学生への要望を把握するためアンケートによる実態調査を行なった。

(2) 調査対象と方法

平成11年度保育実習Ⅰ，保育実習Ⅱにおける実習園104園を対象に，平成12年7月30日付，郵送によるアンケート調査を実施した。有効回答は65園から得られ，回収率は62.5%であった。アンケート用紙は付録として添付する。

(3) アンケート結果

アンケートの形式は，園からの直接的な声を把握したいため，記述式を多く取り入れた。また，質問項目については，本校の実習生や実習に限らず，他の養成校からの実習生や実習も含めて回答している場合もある。アンケート結果の（ ）の数は回答園数を表す。

【アンケート1】 貴園にとってご都合のよい実習の時期，期間をお聞かせください。

(1) 時期・期間について

・1年次の場合

時期

月	園 数	月	園 数
1	5	8	10
2	7	9	7
5	1	10	21
6	8	11	10
7	10	12	4

特になし・短大にまかす 22

(回答なし 1)

期間

期 間	園 数
15日間	1
14日間	12
10日間	15
7 日間	5
6 日間	1

特になし・短大にまかす22

(回答なし 7)

・2年次の場合

時期

月	園 数	月	園 数
1	1	8	6
2	1	9	7
5	1	10	11
6	4	11	4
7	7	12	3

特になし・短大にまかす 22

(回答なし 1)

期間

期 間	園 数
20日間	2
14日間	17
10日間	12
12日間	1
7日間	2

特になし・短大にまかす22

(回答なし 1)

(2) (1)の理由について

・時期（1年次，2年次あわせて記載する。）

都合よい時期	理 由
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月以降は，新入園児が園生活に慣れ，落ち着きはじめる。</li> <li>・5月以降は，園児が落ち着き活動しやすい。（2年次の場合）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。（5）</li> <li>・6月以降は，新入園児が園生活に慣れ，落ち着きはじめる。（2）</li> <li>・6月以降は，園児が落ち着き活動しやすい。（2年次の場合）（2）</li> <li>・落ち着かない時期であるが，現場につくことを目前としている2年生にとっては逆に勉強になる。（2年次の場合）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。（5）</li> <li>・プール等で人手が欲しい時期でもある。</li> <li>・新入園児が園生活に慣れ，落ち着きはじめる。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。（4）</li> <li>・新入園児が園生活に慣れ，落ち着きはじめる。（3）</li> <li>・休みをとる園児が多く，ゆとりを持って指導ができる。（1年次の場合）</li> </ul>

9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。</li> <li>・新入園児が園生活に慣れ、落ち着きはじめる。</li> <li>・8月～9月の頃は職員が揃わず、指導が行き届かない。(2年次の場合)</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。(6)</li> <li>・8月～9月の頃は職員が揃わず、指導が行き届かない。(2)</li> <li>・運動会などの行事に参加できる。(2年次の場合)(2)</li> <li>・新入園児が園生活に慣れ、落ち着きはじめる。</li> <li>・8月はプールなどがあり忙しい。</li> <li>・欠席の園児が多い。</li> <li>・園児が落ち着き活動しやすい時期である。</li> <li>・早い時期に実習に来てても実習生がどうしてよいか分からないことが多い。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。(3)</li> <li>・行事がなく責任実習ができる。(2年次の場合)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を目の前にした保育を見てもらうのによい。(2年次の場合)</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入園児が園生活に慣れ、落ち着きはじめる。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等がなく職員がゆとりを持って実習生や子どもとかかわれる。(2)</li> </ul>

注：(2年次の場合)とは、2年次に関してのみの理由である。その他は、1年次、2年次共通の理由である。

## ・期 間

### 1年次

期 間	理 由
14日間	・10日は非常に短い。せめて2週間の日数が欲しい。
10日間	・今まで受け入れてきて不都合はなかった。
7日間	・1週間は実習で、希望によりボランティアという体制ではどうか。



2 年次

期 間	理 由
20日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 年生の場合 2 週間は短い。3 週間だと本来の力を発揮できるのではないか。</li> <li>・ 学習の成果を発揮し、卒業と同時に責任ある保育実践ができることを期待する。</li> </ul>
14日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10日間では短い。</li> </ul>
12日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの実習で不都合はなかった。</li> </ul>
7 日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 週間は実習で、後はやる気があったらボランティアという体制ではどうか。</li> </ul>

【アンケート 2】 1 回の実習で何人の学生の受け入れが可能ですか。人数をお聞かせください。

受け入れ人数	園 数
1 人のみ	34
2 人まで	25
3 人まで	5
4 人まで	1

【アンケート 3】 短大からの実習中の巡回指導についてお聞かせください。

(1) 伺う時期はいつが適当ですか。

時 期	園 数
前 半	6
中 間	21
後 半	10
いつでもよい	24
不 要	1

(回答なし 3)

(2) 巡回指導に対するご要望があればお聞かせください。

- ・訪問の日を事前に連絡して欲しい。(4)
- ・実習園の選定が確かであれば、実習園にその期間を任せてもらいたい。
- ・もっとゆっくりと懇談ができるとよい。
- ・大学から遠い場所に園があるため無理に巡回しなくてもよい。実習生は真剣に実習をしているので信じて欲しい。
- ・単なる挨拶であれば必要ない。
- ・今まで通りでよい。
- ・実習状況等の連絡程度ができればよい。
- ・保育園の都合を考えて巡回して欲しい。

【アンケート 4】 養成校と実習園のいわゆる連絡協議会の必要についてお聞かせください。

(1)

	園 数
必要である	6
必要でない	52

(回答なし 7)

(2) (1)の理由についてお聞かせください。

○「必要である」の場合

- ・実習園の選定に当たっては、短大側の希望を園に伝え、園の「学生を育てる姿勢」がどのようなものか厳しくチェックしてもらいたい。
- ・文書だけでは理解しにくいことがある。
- ・実習期間中の行事や実習生の心構え、保育園の状況や保育方針について、知ってもらおう。 (2)
- ・実習に対する事について、学生、学校、受け入れ側間で行き違いがある。
- ・短大側の詳細な実習の手引きや要綱を知りたい。
- ・指導案の記入例、実践例やマニュアルがあればそのような場で聞かせて欲しい。

○「必要でない」場合

- ・文書での連絡で充分理解できる。 (10)
- ・日々の現場の業務が多忙で対応できない。 (5)
- ・オリエンテーションがあるから必要ない。 (3)
- ・実習生と直接会って指導した方が良いと思う。 (2)
- ・巡回があるから必要ない。 (2)
- ・電話連絡で間に合う。
- ・養成校の方針が多様で、すべてに対応できるゆとりがない。

【アンケート 5】 今までの実習を通して、トラブルや何か問題点があれば差し支えない範囲でお聞かせください。

- ・最近髪をとかしたり、ジュースを飲んだり、服装、態度、感謝の言葉、言葉づかいなどで常識を欠く学生が見られる。 (3)

- ・実習生にやる気や元気のないことがある。 (2)
- ・提出物の期限を守らない。 (2)
- ・自分を出せないことを残念に思う。
- ・提出物の行き違いがあった。
- ・実習生の人数が多くなると私語が目立つ。
- ・実習中に歯痛で休むのはどうかと思う。
- ・偏食がある。
- ・保育士や子どもの一つ一つの行動など常にメモをとる。
- ・実習生の持ち物が破損した。
- ・男子学生が実習に来たが、トイレや着替え等で迷惑をかけた。
- ・1日の目的がはっきりしない。
- ・学生の質問が減ってきている。
- ・年々実習生の考え方が変わってきている。

【アンケート6】 実習の事前指導において、特に学生がどのようなことを学習し、どのような準備をしておいて欲しいかご意見をお聞かせください。

○生活面において

- ・挨拶がきちんとできる。 (24)
- ・礼儀を身につける。 (22)
- ・正しい言葉使いができる。 (10)
- ・常識を身につける。 (7)
- ・きちんとした身だしなみができる。 (6)
- ・職員との交流を大切にするように心がける。 (3)
- ・明るく元気のよい態度を身につける。 (2)
- ・積極的にきちんと掃除ができる。
- ・子どもの手本となるような行動がとれる。
- ・学校と社会の違いが分かる。

○保育技術面において

- ・紙芝居、絵本、手遊び、ゲームなどができる。 (13)
- ・要点をまとめ大きな字で実習日誌を書く。 (5)
- ・子どもの発達段階を理解する。 (4)
- ・子どもと元気に楽しく遊ぶ。 (4)
- ・自分の得意なものを保育に生かせる。 (3)
- ・簡単な曲のピアノ伴奏ができる。 (2)

- ・自分の得意なものを保育に生かせる。(3)
- ・指導計画案が立案できる。(2)
- ・「自由」「主体性」「自発性」の意味を知っている。
- ・保育所保育指針を理解する。
- ・採用の時点で任せられるだけの技術を身に付けている。
- ・個々の子どもと全体の子どものかかわり方を理解する。
- ・子どもの行動についていける。
- ・乳児との基本的なかかわり方が分かる。
- ・保護者とのかかわり方を学んでおく。
- ・子どもの興味、発達を助長するような人的環境になれる。
- ・園での生活習慣の歌が歌える。
- ・好奇心を持って生活し、それを保育にも生かす。
- ・デイリープログラムが立てられる。

【アンケート7】 実習中に学生に求めたいことについてお聞かせください。

この回答は保育者を目指す姿勢・意欲に関するもの、保育技術・子どもの接し方に関するもの、日常生活に関するものに分けてまとめた。

・1年次

分類内容	具 体 的 内 容
保育者を目指す姿勢・意欲に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に実習に取り組む。(質問をする、失敗を恐れない、チャレンジ精神を持つなど) (15)</li> <li>・実習の目的を明確に持つ。 (4)</li> <li>・保育者の技術を観察し体得しようとする。 (2)</li> <li>・てきぱき、はきはした態度で実習する。</li> <li>・守秘義務を守る。</li> <li>・自分で考えてみる。</li> </ul>
保育技術・子どもの接し方に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの子どもと積極的にかかわる。 (9)</li> <li>・手遊び・絵本・折り紙などができる。 (3)</li> <li>・子どもと楽しく遊ぶ。 (3)</li> <li>・子どもの目の高さで接する。 (2)</li> <li>・優しく言葉かけができる。 (2)</li> <li>・笑顔で子どもと接する。 (2)</li> <li>・子どもにダメと言える態度を持つ。 (2)</li> <li>・元気よく実習できる。 (2)</li> </ul>

保育技術・子どもの接し方に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に行動できる。</li> <li>・保育士の全般的な手伝いができる。</li> <li>・子どもの様子をしっかりと捉える。</li> <li>・愛情を持って子どもと接する。</li> <li>・実習の初期に子どもの名前を覚える。</li> <li>・子どもの言葉一つ一つに耳を傾ける。</li> <li>・現場と学習したことの違いを感じる。</li> <li>・子どもと向き合って対応できる。</li> </ul>
日常生活に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理に配慮する。(8)</li> <li>・挨拶、返事がきちんとできる。(6)</li> <li>・社会人としてのマナーが身についている。(3)</li> <li>・職員との交流をもつ。(3)</li> <li>・きちんとやっており特に問題はない。(3)</li> <li>・身だしなみがきちんてできる。(2)</li> <li>・偏食をなくす。</li> <li>・出勤時間を守る。</li> </ul>

・ 2 年次

分類内容	具 体 的 内 容
保育者を目指す姿勢・意欲に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に実習に取り組む。(躊躇しないで自分の力を発揮する)。(12)</li> <li>・実習の目的を明確に持つ。(4)</li> <li>・積極的に質問をする。(3)</li> <li>・保育士をよく観察し、創意工夫しながら自分もやってみる。(3)</li> <li>・てきぱき、はきはした態度で実習する。</li> <li>・保育に対する意気込みを持つ。</li> </ul>
保育技術・子どもの接し方に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの子どもと積極的にかかわる。(7)</li> <li>・部分的な責任実習ができる。(4)</li> <li>・笑顔で子どもと接する。(3)</li> <li>・優しく言葉かけができる。(2)</li> <li>・元気よく実習できる。(2)</li> <li>・子どもにダメと言える態度を持つ。(2)</li> <li>・子育て支援や特別保育等の理解を深めそれにあった保育をする。</li> <li>・実習の初期に子どもの名前を覚える。</li> <li>・保育士の指示を聞き的確に行動する。</li> </ul>

保育技術・子どもの接し方に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の楽しさを感じる。</li> <li>・責任実習を行うにあたって、デイリープログラムの作成ができる。</li> <li>・指導計画案が立案できる。</li> <li>・子どもたちを刺激するようなアイデアを持つ。</li> <li>・季節の歌が歌える。</li> <li>・全体の前で話すことができる。</li> <li>・子ども全体を見られるゆとりを持てる。</li> <li>・きちんとした言動ができる。</li> </ul>
日常生活に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理に配慮する。(4)</li> <li>・挨拶、返事がきちんとできる。(6)</li> <li>・職員と交流をもつ。(2)</li> <li>・社会人としてのマナーが身についている。(3)</li> <li>・身だしなみがきちんとできる。(2)</li> <li>・礼儀正しい言葉使い、行動ができる。</li> <li>・偏食をなくす。</li> <li>・出勤時間を守る。</li> </ul>

【アンケート 8】 別紙のような実習の評価方法を園にお願いしておりますが、評価の在り方についてご意見をお聞かせください。

様式 2

新潟中央短期大学実習評価表				
平成 年 月 日			実 習 生 氏 名	
			年 番	
実 習 園 ・ 施設 名		所 属 校 名	指 導 者 ・ 職 氏 名	
		印	印	
評 価	A B C D			
所 見				
考 考	<p>1 評価の目安としては、80点以上をA、65点以上をB、50点以上をC、50点未満をDとお考えください。なお、D評価は不合格となります。</p> <p>2 所見欄には、子ども（対象者）理解、子ども（対象者）とのかわり、個々の力などの実習態度全般についてや、保育者としての資質などについて、良かった点や問題点等随時記入をお願いします。</p>			

(1)

	園 数
このままでよい	43
改善する必要がある	18

(回答なし 4)

(2) 「改善する必要がある」と答えられた方は、どのように改善したらよいとお聞かせください。

- ・あまりにも大きな評価欄なので苦慮する。実習態度、挨拶、子どもへの言葉かけなど細かい項目があれば評価しやすい。その上で総合的な評価欄を設けた方がよい。(14)
- ・評価基準を養成校側から協議会などで示して欲しい。
- ・評価に幅が欲しい。A+, A-など。
- ・評価欄は必要ない。そのかわり所見の欄を詳しく記入したい。
- ・評価をつけるのが辛い。なければ幸いだが、それでは実習の意味がないのでしょうか。
- ・評価基準が個々に異なるので、評価される実習生を気の毒に思う。

【アンケート9】 実習後のお手伝いについてご意見をお聞かせください。

(1)

	園 数
受け入れたい	34
受け入れない	19

(回答なし 9)

その他 ・意味がわからない。

(2)

・このような制度があるとは知らなかった。

(2) (1)の理由についてお聞かせください。

○「お手伝いを受け入れたい」の場合

- ・現場での経験が就職後役立つ。(10)
- ・要望があれば、前向きに検討したい。(6)
- ・採用のめやすにしたい。(4)



- ・本来の実習よりもゆとりを持って子どもたちとかかわれるのではないだろうか。(2)
- ・夏休みなどに是非お願いしたい。(2)
- ・短期間で気づかなかったことを発見できる。(2)
- ・子どもが喜ぶ。(2)
- ・その後の子どもの成長を見に来てほしい。
- ・園に活気がでる。
- ・子どもたちに遊びをたくさん経験させてくれる人ならいつでもお願いしたい。
- ・特別な行事がない時には、学生に限らず様々な人とかかわってもらいたい。
- ・短期間であるならば受け入れたい。

○「お手伝いを受け入れない」の場合

- ・子どもや実習生の事故が起きた場合の態勢ができていない。(2)
- ・訪問が自主的で仕事内容が受け身的である。(2)
- ・実習時のように学校から市、市から園という受け入れ方にならない。
- ・行事が次々あり忙しい。
- ・他の学校からの実習生が来る。
- ・必要性を感じない。
- ・場所的に無理である。(粟島)
- ・実習を経験していれば受け入れることもある。
- ・実習後は学校の勉強をしっかりやって欲しい。

【アンケート10】 その他アンケートの項目にとらわれずにご自由にご意見をお書きください。

- ・実習生が来ると園児たちが大変喜ぶ。また初心を忘れがちな保育士にとっても多いに刺激になるので、是非実習に来てほしい。
- ・実習を通して、私共も自らの実習を見直す機会と考えている。
- ・学生時代にできるだけ現場体験ができるとよい。意欲のある学生の实習はできるだけ受け入れたい。
- ・子どもにとっても実習生は人との大切な交流の機会と考えている。
- ・その人らしい保育をするためにも実習などの現場体験を多くし、力をつけて欲しい。
- ・わが園でも「ボランティア」で受け入れをしているが、学生が子どもたちと遊びながら、観察などを工夫している。必ずその姿勢が血となり肉となるように思う。
- ・頭でっかちでなく、実践できるよう特に遊べる実習生を希望する。
- ・保育園ではぎりぎりの体制で子どもたちと過ごしている。学生に専門の指導やアドバイ

すができればよいが、忙しさの中であわただしく過ぎてしまうのが現状である。

- 実習生が色々な疑問を抱けるような保育内容であればよいが、最近実習録の疑問、質問欄の空白のことが多い。そうかといって忙しい時の実習も気の毒に思う。
- 今まで受け入れた学生は一生懸命に実習をしていた。ただもう少し子どもと接する時の言葉や遊びなどの保育を2年生にお願いしたい。
- はきはきした返事と明るい笑顔が大切である。
- 守秘義務は守るように指導して欲しい。
- お手伝いについて受け入れないと記したが、勉強した一部を発表などの形で来園し見せてもらおうと嬉しい。
- 個人評価はどの学校のものでも悩まされる。1週間ぐらいでは見られないよい面がたくさんあるかもしれない。そんなことから評価欄を書くことが鈍る。自己評価を取り入れてもよいのではないか。
- 園として実習生の希望する実習目的、実習内容に沿うようにと思っているので、打ち合わせにその旨を話して欲しい。
- 少子化の現状で仕方がないが、きちんと学んだ意欲あふれる学生が、保育現場での実践を重ね、保育士として現場で働けないのは本当に残念でありもったいないと思う。
- 最近では保育園の採用もほとんどなく、意欲をもって卒業しても働く場がないことは残念に思う。色々な年代の保育士がいれば、もっと園が活気づくのではないか。このような社会状況の中で色々な事を勉強した前途ある若い方が意欲をなくしてしまうのではないかと心配している。
- 学校を出たということで資格を取得し、保育士になり社会に出てくる者が多い。1週間や2週間の実習では満足な保育士になれない。

#### 4. 保育所実習の課題と考察

##### (1) 実習の時期と期間

本学の保育所実習は表1に示すように1年次10月に実習Ⅰを2週間、2年次8月から9月にかけて実習Ⅱを2週間、計4週間実施している。

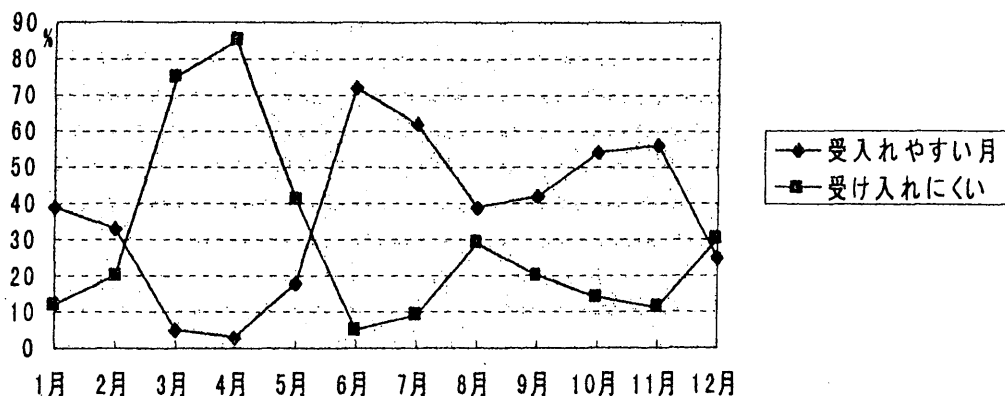
厚生省通知「保育実習実施基準」の3<sup>2)</sup>には、実習を行う時期として「原則として第2学年の期間内とし、夏期、冬期等所定の休日の過半数をこえてこれに充ててはならない」と示されている。しかし全国保母養成協議会が行なった『基礎技能・保育実習に関する研究』<sup>3)</sup>の中でも述べられているように、すべての実習を2年生に実施するのは、他の科目の履修や就職活動等の関係で困難である。また1年次から現場を体験することにより、その後の学校での学習に向かう意欲を喚起し、他の科目の履修においても理解が深まる。

アンケートでは実習生を受け入れやすい時期は1年次、2年次ともに10月が最も多かつ

た。この点については本学が実施している保育実習Ⅰ，教育実習Ⅲと時期が一致している。また3月あるいは4月と回答した園はなかった。

これに関して保母養成のあり方研究会が平成8年に23都道府県に所在する保育所2,173園（公立1,298園，私立875園）を対象に行なった調査<sup>4)</sup>では図表1のような結果がでた。実習生を受け入れやすい時期として6月（71.9%），7月（62.0%），11月（11.6%），10月（54.5%）があげられる。また実習生を受け入れにくい時期として3月（4.9%），4月（2.7%）が多くを占めている。

受け入れやすい時期は行事がないあるいは少ないということが，受け入れにくい時期は年度当初であることがその理由のようである。行事の多い時期や年度当初は園業務が多忙であり，実習を行っても，学生は動きがとれず，現場の保育者への負担も増やしてしまう。しかし卒業生が就職し現場で最初に抱える課題は，新入園児とのかかわり方の難しさである。3月に卒業し4月には新入園児クラス担任となった卒業生が「毎日子どもが泣き続ける中で，自分も気がおかしくなりそうだ。」と訴えていた。新入園児の準備で多忙な3月，4月の時期に実習を受け入れる園はほとんど無いが，これらの時期の園や子どもの様子，そして保育者の援助のあり方を学習できる機会が与えられるとよい。



図表1 実習生を受け入れやすい時期・受け入れにくい月  
（平成8年度保母養成のあり方研究会『多様な保育ニーズに対応できる  
保母養成のあり方について・Ⅱ』研究報告書より）

前述したように本校では，2年次の保育実習Ⅱを夏季休暇の最後の2週間を使って実施している。この時期は実習への準備の時間が十分に持てるという利点もあるが，実習がまだ終了していないため，長期休暇中学生は常に精神的に緊張状態にある。本学では幼稚園

教諭免許と保育士資格の両方の取得を希望する学生がほとんどであるが、2年間で2つの資格を取得するためには、履修科目が多く課業が過密である。他校の実習期間との調整などで簡単ではないが、学生が実習の事前指導で指導された事柄を忘れないうちに実習に行くということから考えても夏季休業の前半に実習を設定できるとよい。

実習の期間は、1年次と2年次合わせて4週間が設定されている。少子化や核家族化、国民生活の多様化が進み、保育所や保育者の果たす役割が拡充している中で、4週間の実習期間は短いと思われる。アンケートによれば「2年生の場合2週間は短い。せめて3週間だと本来の力が発揮できるのではないか。」という声が聞かれた。

## (2) 実習園の選定について

実習中は精神的にも肉体的にも疲労感が強いいため、よりよい環境条件のなかで実施できるよう、通園方法を第一優先として、帰省先あるいは居住地から、徒歩または公共の交通機関で通える範囲内の実習先を決定する。そのため実習園の数は多く広域に広がっている。このことは巡回指導においてやや困難な面もあるが、出身地での就職開拓にもつながるといふ利面性がある。

実習先の選定にあたっては、実習が必修科目だからお願いするというだけでなく、実習生にも現場の保育士にも相互にプラスにならなければならない。そのためには、実習園側の実習生受け入れ姿勢について知る必要がある。アンケートからも「実習生が来ると園児たちが大変喜ぶし、また初心を忘れがちな保育士にとっても多いに刺激になるので、是非実習に来てほしい。」という意見があった。反面「保育園ではギリギリの体制で子どもたちと過ごしている。学生に専門の指導についてアドバイスができれば良いが忙しさの中であわただしく過ぎてしまうのが現状である。」という意見も聞かれ、現場の受け入れ体制はそれぞれの園の事情により異なり、学生の実習経験にも格差が生じているようである。また「実習園の選定には、短大側の希望を述べた上で、実習受け入れ園の“学生を育てる姿勢”がどのようなものなのか厳しくチェックしていただきたい。」という養成校への要望があった。今後それぞれの実習園の実習受け入れ姿勢を把握し、学生が実習園を選択する際の指導としたい。

厚生省通知「保育実習実施基準」の第3実施施設の選定等<sup>9)</sup>においては「保育士養成所長は、実習施設の選定に当たっては、実習の効果が指導者の能力に負うところが大きいことから、特に施設長、保母の資格を有する職員（保育士養成を卒業した男子及び保育士試験に合格した男子を含む。以下同じ。）その他の職員の人的組織を通じて保育について指導能力が充実している施設のうちから選定するように努めるものとする」と記されている。

## (3) 巡回指導について

実習効果を高めるためには、実習園・養成校そして学生の3者間の実習についての共通

理解が不可欠である。本学では文書による方法や実習中の巡回指導、学生と保育所側との実習事前オリエンテーション等により実習園との連携を図っている。

アンケートによれば巡回指導に対して特に強い要望はなかったが、「保育所業務の多忙な日課の中で、単なる挨拶であれば必要ない。」「大学から遠い場所に園があるため無理に来なくてもよいと思う。実習生は真剣に実習をしているのでそれを信じてください。」という意見があった。実習園側は、巡回指導を短大教員が学生の実習態度を把握する場または園への挨拶の場として捉えている場合があるようである。

保母養成のあり方研究会が平成8年に行なった調査<sup>6)</sup>では、養成校の教員等による実習巡回指導に関して「養成校の教員等による実習巡回指導についてどうお考えですか。」という質問項目で「直に声をかけるなどして実習生を励まして欲しい。」(全体の48.6%)の選択肢を選んだ園が最も多かった。次に「園の実習指導体制についてアドバイスや意見がほしい。」(26.4%)が多く、それに続き「実習生の養成校での様子を把握してから来て欲しい。」(25.1%)であった。ここでは巡回指導において養成校に実習体制そのもののアドバイスや指導までも求めている。

#### (4) 連絡協議会について

養成校と保育所の間いわゆる連絡協議会について、アンケートでは「必要でない」と回答した園が79.1%にもおよんでいる。その理由としては「日々の現場の業務が多忙で対応できない。」「養成校の方針が多様で、すべてに対応できない。」であった。しかし少数ではあるが協議会の必要性を求める声もあった。

実習園側からの実習体制における短大への要望、実習日誌、指導計画書の形式やその書き方など学生指導の具体的な内容、これからの保育者養成に求められるもの等について現場の保育者の生の意見を聞き具体的に検討しながら、共通理解を図り共に学生を養成するための連絡協議会の必要性を感じることもあるが、これについては全国保母養成協議会が行なった『基礎技能・保育実習に関する研究』<sup>7)</sup>の中でも述べられているように、多くの保育所が複数の養成校から実習を受け入れているため個々の養成校がそのような議会を開催しても保育所側の負担が多く出席は望めない。また養成校が独自で開催しても困難な場合も多い。都道府県のような単位で開催することも実際行なわれているが、煩雑な事務処理をどこが担うかという問題もある。

#### (5) 「お手伝い実習」について

実習後、学生が自発的に実習するいわゆるお手伝い実習については、その受け入れに積極的な園と消極的な園とに2分された。前述の実習期間において、2年次の実習は2週間では短いという意見があった。保育所や保育者の果たす役割が拡大している中で、2年間を通じて計4週間の実習では短い。これを埋めるためにも、今後学生にはお手伝い等の形で積極的に現場体験をさせたい。アンケートでも「本来の実習よりゆとりを持って子ども

たちにかかわれるのではないだろうか。」「短期間で気づかなかったことを発見できるのではないか。」という意見があるように、お手伝い実習は、本来、学校で科目として設定された実習とは異なった学びの場でもある。園側では「採用のめやすとしたい。」などの意見もあり、意欲的な学生の姿勢はさまざまに波及する。

#### (6) 評価について

本学の保育実習の単位認定には、実習園からの評価表、実習日誌、事前事後の授業態度、実習反省文等を総合し判定している。

アンケートでは、評価表の形式について「このままでよい。」という意見が多かったが、「評価基準を養成校側から協議会などで示して欲しい。」「あまりにも大きな評価欄なので、苦慮する。実習態度、挨拶、子どもへの言葉かけなど細かい項目があれば評価しやすい。その上で総合的な評価欄を設けた方がよいのではないか。」という改善を求める意見もあった。また「評価基準が個々に異なるなかで、評価される実習生を気の毒に思う。」という声もあった。

実習園からの評価は各園の評価基準の判断がさまざまで、園によっての格差が大きいことが問題となっている。実習先での評価と学内での保育実習の関する評価との差が多い場合も見受けられ、保育実習評価は難しくなっている。学生が実習の反省と課題を正しく認識し、今後の意欲につながるように評価にしていかなければならない。

#### (7) 実習園からの要望、意見について

アンケートの中で、設問5では今までの実習を通してのトラブルや問題点を、設問6では事前指導において学生に学習して欲しいことについてを、設問7では実習中の学生に求めたいことを、設問10ではその他として、自由記述による意見を求めた。設問の枠を超え重複した回答が多かった。設問5の実習中の問題点では際立った問題は記載されていなかったが、回答内容は設問7の学生に求めたいこと同様のことが多く記載されていた。設問6の事前指導に求めるものと設問7の実習中に学生に求めるものについても回答内容が類似していた。全体の内容は巡回指導や実習日誌、評価では知り得ない学生の実態とそれに対する実習園側の生の声を具体的に知ることができた。

上記の設問全体を通して、実習の目的を明確に持つ、失敗を恐れない、質問をするなど積極的に実習する意欲や姿勢が、また生活面では、挨拶や返事、健康管理や身だしなみがきちんとできるなどを含めて社会人としてのマナーを身に付けていることが学生に求められている。保育技術面では、1年次の実習では保育所生活を理解し子どもと楽しく交わることが中心で、子どもと積極的に絵本、手遊びができる等が求められている傾向にある。2年次では、個々の発達段階をよく理解した上で、活動を設定し保育することが求められている傾向にある。

設問10の自由記述においては、さまざまな意見があった。学生や養成校に求めるものの

他に、今の社会情勢の中で保育士養成における問題や課題を提起していたものもあり、その中に「人生の大切な幼児期を扱う保育士の資格を短大卒で与えるのはどうか。」という意見があった。この意見には多くの観点が含まれると推測されるが、保育士養成の年限のついて見ると、これに関して保母養成のあり方研究会が平成8年に行なった調査<sup>9)</sup>では、保母養成の年限について次のようなアンケート結果を掲載している。

4年制大学卒の保母を採用する理由を3つ以内で選ぶことを求めた設問の回答では「4年間の学習は社会に対する視野が広くなり、変動の激しい保育界を支える人材養成として適している。」(29.3%)「保育について理論的、学問的に多くのことを学んでいる。」(24.2%)「2年間の養成では専門教科をおいかけただけで具体的な技術が伴わない。」(20.9%)が多く選択された。同様に4年制大学の保母を採用しない理由を求めた回答では(採用するつもりもないを含む)、「保母は学歴よりも人間性など資質がより大切なものとして要求される。」(33.4%)「4年制大学卒を採用するための制度ができていない。」(17.6%)「保母にはどちらかという、学歴よりも保育経験のほうが重要である。」(16.1%)の回答があった。今回実施したアンケートの設問10の回答の中に見られた「頭でっかちでなく、実践できるよう特に遊べる実習生を希望します。」の意見が大方の要望と見られる。

#### おわりに

筆者は保育所実習を担当し2年目を迎えた。本学の実習運営をまとめることで、筆者自身が実習運営についての認識を整理することができた。また実習園へのアンケート調査を通して、保育所実習における学生の姿や実習園の詳細な要望や意見を知ることができた。

本研究を今後の実習運営や学生への指導に反映していくことが、円滑かつ充実した保育所実習の遂行につながると確信する。

今回の研究は実習についての一考察であり、今後多面的な検討を重ねていく必要性を感じた。

学生が施設の現状に触れるという貴重な実習体験を通し、保育者となる夢がより一層広がり、保育者としての自己のあり方に役立つ実習となるよう今後も研究を積んでいきたい。

#### 〔謝辞〕

本研究を進めるにあたり、アンケートに御理解・御協力いただきました保育所の所長先生をはじめ諸先生方に心より御礼申し上げます。

#### 注

- 1) 全国保母養成協議会, 1995, 保母養成資料集14号『基礎技能・保育実習に関する研究』p.13.

- 2) 全国保母養成協議会, 1995, 全国保母養成協議会第34回研究大会実施要綱, p.99.
- 3) 全国保母養成協議会, 1995, 保母養成資料集14号『基礎技能・保育実習に関する研究』 p.194.
- 4) 保母養成のあり方研究会, 1997, 平成8年度日本保育協会委託研究研究報告書, p.40.
- 5) 全国保母養成協議会, 1995, 全国保母養成協議会第34回研究大会実施要綱, p.100.
- 6) 保母養成のあり方研究会, 1997, 平成8年度日本保育協会委託研究研究報告書, p.46.
- 7) 全国保母養成協議会, 1995, 保母養成資料集14号『基礎技能・保育実習に関する研究』 p.212.
- 8) 保母養成のあり方研究会, 1997, 平成8年度日本保育協会委託研究研究報告書, pp.60-61.



# 付 録

## 保育実習に関するアンケート

### 保育園

※無記名でもよろしいです。

1. 貴園にとってご都合のよい実習の時期、期間をお聞かせください。

(1) 時期・期間について

1年生の場合

( ) 月頃 ( ) 日間

2年生の場合

( ) 月頃 ( ) 日間

(2) (1) の理由についてお聞かせください。

※参考までに本校では次のような日程で保育実習を実施しております。

1年次 保育実習Ⅰ 10月の下旬 2週間

2年次 保育実習Ⅱ 8月下旬から9月上旬かけての2週間

2. 1回の実習で何人の学生の受け入れが可能ですか。人数をお聞かせください。

( ) 人

3. 短大からの実習中の巡回指導についてお聞かせください。

(1) 何う時期はいつが適当ですか。

・実習の前半 ・実習の中間 ・実習の後半 ・特になし

(2) 巡回指導に対するご要望があればお聞かせください。

4. 養成校と実習園のいわゆる連絡協議会の必要についてお聞かせください。

(1) ・必要である ・必要でない

(2) (1) の理由についてお聞かせください。

No.1

5. 今までの実習を通して、トラブルや何か問題点があれば差し支えない範囲でお聞かせください。

6. 実習の事前指導において、特に学生がどのようなことを学習し、どのような準備をしておいて欲しいかご意見お聞かせください。

対象・ 内容	生活面について	保育技術面について
1年生		
2年生		

その他ご意見があればお書きください。

7. 実習中に学生に求めていることについて、お聞かせください。

対象・ 内容	生活面について	保育技術面について
1年生		
2年生		

その他ご意見があればお書きください。

8. 別紙のように実習の評価方法を圈にお願いしておりますが、評価の在り方についてご意見をお聞かせください。

(1) ・このままでよい ・改善する必要がある

(2) 「改善する必要がある」と答えられた方は、どのように改善したらよいかお聞かせください。

No.2

9. 実習後のお手伝いについてご意見をお聞かせください。

(1) ・お手伝いを受け入れたい ・受け入れない

(2) (1) の理由についてお聞かせください。

10. その他アンケートの項目にとらわれずに自由にご意見をお書きください。